

復興のめざすまちの姿

海と緑と太陽との共生・海浜新都市の創造

復興のまちづくりの目標

人口規模の設定 2万5千人台

6つの復興のまちづくりの基本方向により、まちづくりを進めます。



3つの基本理念

世界に誇れる
美しい
まちの創造

ひとを育て
命と絆を
守る
まちの創造

活力あふれる
まちの創造

私たちは、復興のシンボルとなった「奇跡の一本松」に名勝「高田松原」復元の希望を託すとともに、気仙型住宅の街並みの形成や安全で環境と共生する新しい減災のまちづくりに取り組み、だれもが住んでみたいと思う「世界に誇れる美しいまち」を創ります。

私たちは、地域の絆を取り戻し、継承し、生涯にわたっていきいきと、だれもが心豊かに安心して暮らすことができるよう「ひとを育て、命と絆を守るまち」を創ります。

私たちは、地域の活力を取り戻すと同時に、だれもが意欲をもって働き、安定した生活ができるよう「活力あふれるまち」を創ります。

陸前高田市では、現在、震災復興計画の策定作業を進めています。「復興計画(素案)」に対する皆様のご意見をEメールやFAXでお寄せください。

問い合わせ先 : 陸前高田市復興対策局 平成23年10月
〒029-2205 陸前高田市高田町字鳴石42-5
TEL 0192-54-2111(内線181、182) FAX 0192-54-3888
E-MAIL hukko@city.rikuzentakata.iwate.jp

陸前高田市震災復興計画(素案)〈概要版〉

～「海と緑と太陽との共生・海浜新都市」の創造～

策定の趣旨

- 東日本大震災の猛威や恐ろしい経験と津波防災、減災への教訓を謙虚に受け止め、一刻も早く仮設居住を解消し、被災者の生活再建を図るとともに、地域産業の再生と発展を目指し、市民が安心して暮らし、働くことのできるまちづくりに全力を挙げて取り組まなければなりません。
- 将来に向けて希望と夢と安心のもてる新しい本市の復興ビジョンを示すとともに、本市の創生と活力向上に繋がる陸前高田市復興計画を策定し、多くの方の協働、連携により本市の復興を実現しようとするものです。

災害の状況(抜粋)

＜地震の状況＞

発生時間	平成23年3月11日(金)14時46分
震源地	三陸沖
震源の深さ	約24Km
地震の規模	マグニチュード 9.0
当市の震度	震度6弱

＜津波被害の状況(被災戸数)＞

被災戸数	全壊	3,159戸
	大規模半壊	97戸
	半壊	85戸
	一部損壊	27戸
	計	3,368戸

＜人的被害状況＞

総人口	24,246人	住基人口 ※平成23年3月11日現在
生存確認数	22,319人	※平成23年9月11日現在
死亡者数(震災分)	1,569人	市民で身元が判明、又は死亡認定として死亡届の出された人数
〃(その他)	171人	病死、事故死など
行方不明者数	162人	安否確認要請のあった人数
確認調査中	25人	

計画の構成と期間

陸前高田市震災復興計画

基本構想

復興に向けた基本理念やまちづくりの目標を示す

構想の目標期間
(平成23年度～平成30年度)

(第1期)

(第2期)

基本計画

目標達成に向けた施策と整備目標を示す

復興基盤整備期
(平成23～25年度)

復興展開期
(平成26～30年度)

3年

5年

復興のまちづくりの基本方向と重点目標

1 災害に強い安全なまち

<p><基本方向> 津波に強い防潮堤の整備を前提に、防災計画の再整備、救援・救護体制の整備など、防災体制の再整備による「津波防災」と「減災」を組み合わせた災害に強い安全なまちづくりを進めます。</p>	<p><重点目標> ○「海岸保全施設」、「まちづくり」、「ソフト対策」を組み合わせた複合対策を図ります。 ○防潮堤、国道45号、鉄道、三陸縦貫自動車道などの骨格となる社会資本整備とまちづくりとの連動による総合的に災害に強いまちの再構築を図ります。 ○高田松原地域については、津波に強い防潮堤の整備促進を図るとともに、背後地は国営による防災メモリアル公園の設置を促進し、海と緑が織りなす松林を再生する。 ○市街地については、複数の南北方向の避難道路と東西方向の避難道路（アップルロードの延伸）の整備を促進します。 ○海岸地域の低地部は、暫定的段階的に非居住区域を設定し、高台への移転等を計画します。</p>
---	---

2 快適で魅力のあるまち

<p><基本方向> 津波に強い防潮堤等の整備を前提に、防災性や利便性を考慮した土地利用の創出、災害時のみならず市民生活や経済活動にとっても快適で魅力ある都市空間、都市機能を創出するまちづくりを進めます。</p>	<p><重点目標> ○高田地区を中心とする新しい市街地は、浸水区域外に形成を図り、地盤の嵩上げ等を行ったうえで、公共・公益施設、商業ゾーン、住宅街を配置、再開発します。 ○今泉地区は、地盤の嵩上げや西側の丘陵部を開発し、歴史的な建物等の復元に配慮しながら歴史を受け継ぐ新しいまちを再生します。 ○下矢作地区、竹駒地区は、地元意向に対応した高台移転等を計画するとともに、長部地区、米崎地区、小友地区、広田地区は、漁家の生産活動等に配慮しながら、計画します。 ○学校、病院、図書館、文化施設等の公共施設は、災害時における避難、機能の保全を考慮し、高台への移転を計画し、集積を図ります。 ○公共交通環境については、道の駅、JR駅、バスターミナル、学校、病院、商業施設等への利便性や快適性に配慮し、市内の新しい交通環境や広域ネットワークの構築を図ります。 ○高台等の住宅開発地域は、文化財、地形や自然景観に配慮するとともに、エコタウンとして開発します。 ○海岸地域の低地部の土地利用は、防災性や安全性を考慮し、公園、産業地域等に利用します。</p>
--	---

3 市民の暮らしが安定したまち

<p><基本方向> 住宅、学校、病院等の医療施設の再建をはじめ、教育、保健、医療、介護・福祉サービスの回復など、安定した市民の暮らしを再興します。</p>	<p><重点目標> ○高台に集積する公共施設（県立高校、県立病院、図書館等）は、緑に囲まれた「健康と教育の森ゾーン」として再生整備するとともに、公共施設周辺は、自然環境に配慮した活用を図ります。 ○市民生活や地域に密着した民間医療施設、郵便局、金融機関、商業店舗などが配置されるよう再建を支援します。 ○野球場等のスポーツ公園を整備し、合宿等市内外からの通年利用を促進します。</p>
--	---

4 活力あふれるまち

<p><基本方向> 農業や水産業の基幹産業、水産加工や醸造等の地場産業、宿泊施設や道の駅等の観光産業、商業など、雇用の場の確保や産業基盤の早期復興とともに、食関連産業等の新規企業立地や集積を推進します。</p>	<p><重点目標> ○市街地内を通る新たな幹線道路の整備促進を図るとともに、商業ゾーンを形成し、都市内交通や新しい市街地のメインストリートとして魅力や賑わいを創出します。 ○長部漁港、脇ノ沢漁港、広田漁港、六ヶ浦漁港は、水産業拠点地域として漁港施設、直売施設、水産加工施設などの基盤整備や産業施設、公園の整備を促進します。 ○農地の除塩対策や農業施設、園芸研究室等の早期復旧、農業生産の効率化を目指し農地の集約化等を図るとともに、太陽光などの再生可能エネルギーを活用した新たな施設園芸団地の整備に取り組み、大規模化を促進します。 ○小友干拓地域を干潟に再生し、オートキャンプ場モピアと連携した体験型観光拠点に再生するとともに、野外活動センター機能等の公園活用を検討します。</p>
--	---

5 環境にやさしいまち

<p><基本方向> 太陽光など、大規模災害における活用や地球環境にやさしいエネルギーの活用を推進します。</p>	<p><重点目標> ○エコタウン鳴石団地のような太陽光を利用した環境共生型団地の整備を促進するとともに、再生可能エネルギーの活用による災害時での自立的なエネルギー供給可能体制を構築します。 ○太陽光などの再生可能エネルギーを活用した産業の立地を促進するとともに、公共施設や一般家庭への普及など、環境にやさしいまちづくりの取組みを進めます。</p>
---	--

6 協働で築くまち

<p><基本方向> 地域のコミュニティを再生し、市民・事業者・市の役割分担のもと、地域の特性やコミュニティ活動を生かした協働のまちづくりを推進します。</p>	<p><重点目標> ○高台等への集団移転を促進し、地域のコミュニティの再生を図ります。 ○地区コミュニティ施設は、避難所としての役割を果たす防災資材倉庫や健康センター、診療施設等を考慮し、再整備を促進します。 ○地域の祭りを復興するため、「けんか七夕」や「動く七夕」ロードやまつり広場の整備を図ります。</p>
--	--

復興の重点計画の推進

1 新市街地と産業地域、防災道路網の形成

被災した高田地区の市街地は、海岸保全施設等の整備の進展に応じて、浸水区域外を基本に、新しい市街地の形成を図ります。また、被災した低地部等は、本市の基幹的産業と連携した新産業ゾーンとして活用を図ります。防災道路網は、広域幹線道路と連動した整備を促進するとともに、特に、新しい市街地内を通る幹線道路は、都市内交通のメインストリートとして整備促進を図ります。

2 高田松原地区・防災メモリアル公園ゾーンの形成

本市のシンボルでもある高田松原公園を再生するとともに、今回の大震災の多くの犠牲者を追悼、鎮魂する公園として、大震災の経験や教訓を後世に語り継ぎ、そしてまたより安全で暮らしやすいまちを創り上げ、「防災文化」として醸成し継承していくため、市街地を防御する機能を兼ね備えたメモリアル施設を有する高田松原地区・防災メモリアル公園ゾーンの整備を進めます。

3 今泉地区・歴史文化を受け継ぐまちの再生

今泉地区は、藩政時代に気仙地方の郡政の中心地として栄えたところであり、これまで培われ、築き上げられてきた歴史・文化を受け継ぎ、後世に継承するべく、大庄屋や街道の復元など、地域特性や景観に配慮したまちづくりを進めます。

4 氷上山麓地区・健康と教育の森ゾーンの形成

市民の生涯教育や健康促進、文化活動を促進するため、保健医療福祉総合エリアの創設、県立高等学校、体育文化センターを集積するなど、「健康と教育の森ゾーン」の整備を進めます。

5 高田沖地区・太陽光発電所の誘致推進

太陽光等の自然エネルギーを積極的に活用し、環境にやさしいまちづくりを進めるとともに、蓄電技術等の導入を進めることにより、災害発生時においても自立的なエネルギー供給を可能とするまちづくりを目指します。そのため、被災農地を有効活用し、太陽光発電所等の誘致を図り、再生可能エネルギー関連企業の集積を促進します。

6 浜田川地区・大規模施設園芸団地の形成

農業の生産や供給力の再生を図るため、県や民間企業等との連携を図りながら、県農業研究センター南部園芸研究室や市営農センターといった園芸振興拠点施設が立地する浜田川地区を食農産業モデル地域として設定し、太陽光型植物工場の誘致や生産開発型の大規模施設園芸団地の形成を図り、雇用と産業の活性化を図ります。

7 小友浦地区・干拓地の干潟再生

小友浦干拓地域を干潟に再生し、オートキャンプ場モピアと連携した体験型・滞在型観光拠点に再生するとともに、関係機関と連携した新たな交流拠点の整備を推進します。

8 地区コミュニティ別居住地域の再生(下矢作、竹駒、今泉、長部、高田、米崎、小友、広田)

地域の特性を踏まえながら、安全な居住地域を確保するとともに、地域のコミュニティの再生を図り、安心して暮らせるまちづくりを展開します。

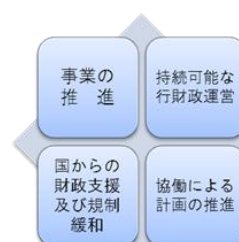
- (1) 下矢作地区
 - ・海岸保全施設等の整備の進展に応じて、暫定的段階的に非居住区域を設定し、住民意向に対応した高台移転等を促進します。
- (2) 竹駒地区
 - ・海岸保全施設等の整備の進展に応じて、暫定的段階的に非居住区域を設定し、住民意向に対応した高台移転を促進します。
 - ・国道340号の拡幅改良を促進します。
- (3) 今泉地区
 - ・海岸保全施設等の整備の進展に応じて、暫定的段階的に非居住区域を設定し、地盤の嵩上げ等による復元を図ります。
 - ・三陸縦貫自動車道のパーキングエリア、スマートインターの整備の促進を図るとともに、避難道路を整備します。
- (4) 長部地区
 - ・海岸保全施設等の整備の進展に応じて、暫定的段階的に非居住区域を設定し、漁家の生産活動等に配慮しながら、集落の再生を図ります。
 - ・国道45号を嵩上げし、以西への浸水を防止します。
 - ・三陸縦貫自動車道のインターチェンジ整備を促進します。
- (5) 高田地区
 - ・海岸保全施設等の整備の進展に応じて、暫定的段階的に非居住区域を設定し、浸水区域外を基本に新しい市街地の形成を図り、区画整理による住宅街や高台住宅団地等を整備します。
- (6) 米崎地区
 - ・海岸保全施設等の整備の進展に応じて、暫定的段階的に非居住区域を設定し、住民意向に対応した高台住宅団地の整備や高台移転を促進するとともに、漁家の生産活動等に配慮しながら、集落の再生を図ります。
- (7) 小友地区
 - ・海岸保全施設等の整備の進展に応じて、暫定的段階的に非居住区域を設定し、住民意向に対応した高台移転を促進するとともに、漁家の生産活動等に配慮しながら、集落の再生を図ります。
 - ・アップルロードの嵩上げや避難道路の整備を促進します。
- (8) 広田地区
 - ・海岸保全施設等の整備の進展に応じて、暫定的段階的に非居住区域を設定し、住民意向に対応した高台移転を促進するとともに、漁家の生産活動等に配慮しながら、集落の再生をはかります。
 - ・避難道路としての主要地方道大船渡・広田・陸前高田線の整備を図ります。

目標別計画の推進

目標別計画

- 災害に強い安全なまちづくり
- 快適で魅力のあるまちづくり
- 市民の暮らしが安定したまちづくり
- 活力あふれるまちづくり
- 環境にやさしいまちづくり
- 協働で築くまちづくり

計画の実現に向けて



被災者の生活再建や市街地・被災地域の復興はもとより、地域産業の再生と発展を目指し、だれもが住んでみたいと思う、心豊かに安心して暮らし、安定した生活ができるまちづくりを本計画の着実な実行により進めます。